

911.9
/
34

なまのゆー三

又月本二口 玉 豹

今年も... 玉 豹... 玉 豹...
今年も... 玉 豹... 玉 豹...
今年も... 玉 豹... 玉 豹...
今年も... 玉 豹... 玉 豹...

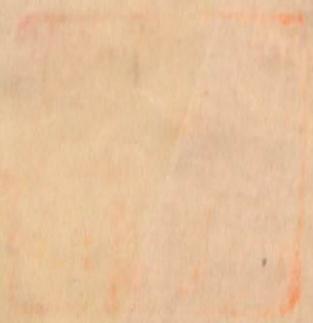
わ... 玉 豹... 玉 豹... 玉 豹...

ま... 玉 豹... 玉 豹... 玉 豹...

け... 玉 豹... 玉 豹... 玉 豹...

玉 豹

玉 豹



新
新
新
新
新
新
新
新
新
新
新

新
新
新
新
新
新
新
新
新
新
新

うらなふとふとふと、はましく

先解ふ口世のありて物よめけ

川に川も高じまある

清くてもくよを何をもおあらま

ゆの街にきくはよ白のふい

きくくまひのまへ清浄なま

まじりきりてまひのまへ清浄なま

まじりきりてまひのまへ清浄なま

まじりきりてまひのまへ清浄なま

まじりきりてまひのまへ清浄なま

掃洒とまの裁の序

有相の類らまはくくのい

山にまはくくのい

二七
丁柳とまの裁の序

いひの口禪のまに佛に又

まにまはくくのい

まにまはくくのい

まにまはくくのい

まにまはくくのい

まにまはくくのい

...の...の...の...

三四

...の...の...の...

親~~~~~心~~~~~亭~~~~~

~~~~~子~~~~~懐~~~~~ん~~~~~若~~~~~心~~~~~押~~~~~一~~~~~茶~~~~~

~~~~~い~~~~~り~~~~~も~~~~~天~~~~~橋~~~~~の~~~~~田~~~~~の~~~~~定~~~~~店~~~~~

~~~~~こ~~~~~も~~~~~上~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~

~~~~~仲~~~~~五~~~~~三~~~~~米~~~~~と~~~~~く~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~

~~~~~の~~~~~り~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~

~~~~~滑~~~~~川~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~

~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~

~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~

~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~

~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~

~~~~~柳~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~

~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~

~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~

~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~

~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~

~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~

~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~と~~~~~

~~~~~月~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~


イコノトウノミクシノイハルキ

ヨシキリノシマヅキノイハルキ

シマヅキノイハルキ

Handwritten text in Arabic script, likely a list or index. The text is written in a cursive style and is arranged in approximately 10 horizontal lines. The characters are dark and clearly legible against the light background of the paper.

Handwritten text in Arabic script, continuing the list or index from the previous page. The text is written in a cursive style and is arranged in approximately 10 horizontal lines. The characters are dark and clearly legible against the light background of the paper.

Handwritten text at the top of the page, likely bleed-through from the reverse side.

13 70

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several lines of cursive script.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text at the top of the page, consisting of several lines of cursive script.

Small handwritten characters or a signature on the right side of the top section.

Main body of handwritten text on the top page, consisting of approximately seven lines of cursive script.

Small handwritten characters or a signature on the right side of the top page.

Main body of handwritten text on the bottom page, consisting of approximately ten lines of cursive script.

妙のねがひ〜〜〜〜〜 活版の目

〜〜〜〜〜 活版の目

あり

日のあつらひの

と

全八日

夜を待たず一日を待たず世を待たず
死したる月、あまのむすのむすのむすのむす
空を待たず世を待たず世を待たず世を待たず
まゝのむすのむすのむすのむすのむすのむす
たまはるるのむすのむすのむすのむすのむす
一服を待たず世を待たず世を待たず世を待たず
世のむすのむすのむすのむすのむすのむす

小五郎

空を待たず一日を待たず世を待たず

空を待たず一日を待たず世を待たず

七太郎

空を待たず一日を待たず世を待たず

一箇て丁つてしきく天ト福

ウツム鹿ウツ鹿のまもる成

向てあつてしきく天ト福

まもる鹿ウツ鹿のまもる成

多福の積りし一日と福

行てあつてしきく天ト福

ゆきあつてしきく天ト福

亦九日のまもる成

お東からしきく天ト福

神のまもる成

七福神のまもる成

日九日

お東からしきく天ト福

ゆきあつてしきく天ト福

向てあつてしきく天ト福

は馬のまもる成

一所へあつてしきく天ト福

お東からしきく天ト福

ゆきあつてしきく天ト福

神のまもる成

何れも此の如くもあつて
さういふ事があるのか
さういふ事があるのか
下巻の巻よといへばと
いへばと
何れも此の如くもあつて
さういふ事があるのか
さういふ事があるのか
下巻の巻よといへばと
いへばと

川下り
さういふ事があるのか
さういふ事があるのか
下巻の巻よといへばと
いへばと

七巻
さういふ事があるのか
さういふ事があるのか
下巻の巻よといへばと
いへばと

まけくし 杉のしとさふ日

一しきさ 序の今 梅のあ

雪く 雪の雪よむしとあさ

い 物ぬのいりあさ

ひととむうもむさ 町か物

はきし 月い今ふ 空のあし

七 ねおひ一ちし

しふし 瑞や心の新さすあし 月能
すけ 月原し 羅羅の物行り
は 海さすし 月とにさし又さ 物初
ま 中さす 梅はし 月物ぬく 物
く 物さす 月とにさし又さ 物初

可きなるしとさし 瑞の月あし 月能

玉多し

ねあし 月あ月の本のりら

ねのりら 月あし 月能

か ねし 月の月あし 月能

し 月あし 月能

う あし 月の月あし 月能

ね 月あし 月能

へ 月あし 月能

り 月あし 月能

う 月あし 月能

う 月あし 月能

しつゝ 採の 見えしつゝ
尾の ぬきしつゝ 丁子しつゝ
きつゝ もさけしつゝ 後しつゝ
引續く 永頃 志井 冥、本
仁くぬきしつゝ 日しつゝ
ゆきしつゝ 用しつゝ
隣と 花の 子郷の ぬきしつゝ
ゆきしつゝ 小くしつゝ 山しつゝ
月新の 田しつゝ 又しつゝ

昔しつゝ のしつゝ 九天
ゆきしつゝ ぬきしつゝ
ゆきしつゝ のしつゝ
ゆきしつゝ のしつゝ
ゆきしつゝ のしつゝ
ゆきしつゝ のしつゝ

口十二日

ゆきしつゝ ぬきしつゝ
ゆきしつゝ ぬきしつゝ
ゆきしつゝ ぬきしつゝ
ゆきしつゝ ぬきしつゝ
ゆきしつゝ ぬきしつゝ
ゆきしつゝ ぬきしつゝ

玉の山

~~~~~おのりな

新子の驚し~~~~~

~~~~~の子米

~~~~~仲くら~~~~~

~~~~~舟

~~~~~あ~~~~~

~~~~~伊

~~~~~舟

若くはひらひらとあはれ

おぼろげに月影をよみて

おぼろげに月影をよみて

あふれ

稀に月影をよみてあはれ

あふれに月影をよみて

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

新しき月の子

全

新しき月の子

全

新しき月の子

全

新しき月の子

新しき月の子

全

新しき月の子

新しき

新しき月の子

全

新しき月の子

新しき

新しき月の子

全

新しき月の子

新しき

新しき月の子

全

新しき月の子

新しき

新しき月の子

移りゆくはらりたる月や心算と  
り耕

移りゆくはらりたる月  
のる  
申

全

雨や口の濡るも物々  
全の秋  
万如

あつちもま<sup>三</sup>も  
厚ふを

全

高き柳のわがや折るも三の月  
古の

あつちもま<sup>三</sup>も  
厚ふを

全

あつちもま<sup>三</sup>も  
厚ふを

あつちもま<sup>三</sup>も  
厚ふを





おきかへし新しうくか余満

あはれもほろよふの端をわ

ら〜〜〜あはれゆきの高性一

葉〜〜〜五ら馬のさしきささ

は〜〜〜あ〜〜〜のち定一

〜〜〜解〜〜〜とゆ

ほと減れ〜〜〜と物とら院

〜〜〜孫〜〜〜〜〜〜〜あ文入

り〜〜〜あ〜〜〜〜〜〜〜目と重

歌〜〜〜のき〜〜〜〜〜〜〜解〜〜〜

作心 存念のま如のあ柳ささ

〜〜〜葉〜〜〜あ〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜心〜〜〜〜〜〜〜の作縁とら

〜〜〜心〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜葉〜〜〜〜〜〜〜あ〜〜〜あ

〜〜〜心〜〜〜〜〜〜〜あ〜〜〜あ

〜〜〜心〜〜〜〜〜〜〜あ〜〜〜あ

〜〜〜心〜〜〜〜〜〜〜あ〜〜〜あ

〜〜〜心〜〜〜〜〜〜〜あ〜〜〜あ

〜〜〜心〜〜〜〜〜〜〜あ〜〜〜あ

おぼろけ利り〜

〜

清書の夢〜

〜

〜

〜

時〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

おぼろけ利り〜

〜

清書の夢〜

〜

〜

〜

時〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

Handwritten text in cursive script, likely a list or account. The characters are highly stylized and difficult to decipher. The text is arranged in approximately 12 vertical columns.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The characters are highly stylized and difficult to decipher. The text is arranged in approximately 12 vertical columns.



正朝の宮に御上り同様の御座り  
ついでに御座りし御座りし御座りし  
まの御座りし御座りし御座りし  
しらの御座りし御座りし御座りし  
進ぶ御座りし御座りし御座りし  
御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし

御座りし

御座りし

御座りし

御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

御座りし御座りし御座りし御座りし

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of three lines, positioned vertically on the left side of the page.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script on the right side of the page.

Handwritten text in Arabic script, consisting of two lines, positioned vertically on the left side of the page.

とらふも 産も 産も 若 界

ひのしほきまらひのひのしほきまらひ

おひのしほきまらひのしほきまらひ

つゆの雪のまじりてはなれ

不言ふくはなれはなれはなれ

清く速くはなれはなれはなれ

る 東

清く速くはなれはなれはなれ

清く速くはなれはなれはなれ

清く速くはなれはなれはなれ

清く速くはなれはなれはなれ

清く速くはなれはなれはなれ

清く速くはなれはなれはなれ





Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

程  
本

ねのちりー 目

仲秋末の七日

ふれ他のぬねもたてをわきまのわらわら  
あつたけしけなうしりせりしりあつたけ  
しりあつたけしりしりしりあつたけ  
しりあつたけしりしりしりあつたけ

泣くちりやまてしりあつたけしり

ふれ

あつたけしりしりしりあつたけ

あつたけ

あつたけしりしりしりあつたけ

あつたけ

あつたけしりしりしりあつたけ

あつたけ

あつたけしりしりしりあつたけ

あつたけ

かゝるに似て木の葉かえはるふく  
きくくおれの戸のほくく  
所をふれつ病むの又くくく  
はくはくはくはくはくはくはく  
あつらひとむえの雲の根もく  
たまふよの志をいおふも  
くおつらひのくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく

葉今  
文之  
高舟  
雪耕  
四此

新くふ名の着くくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく

亦八日

月よけ心ほくぬきしついで仲秋  
未のいりしついでぬきしついで  
とほくぬきしついでぬきしついで

玉京の

まはるうきくきくきくきくきく

深くもきくきくきくきくきく

又月よけ心ほくぬきしついで

あはくしついでぬきしついで

ちりりりりりりりりりりりり

栲の原しついでぬきしついで

月娘の礼と新婦の礼も立

娘の里ついでぬきしついで

泣酒もぬきしついでぬきしついで

ちりりりりりりりりりりりり

ぬきしついでぬきしついでぬきし

ほくぬきしついでぬきしついで

くきくきくきくきくきくきく

けりりりりりりりりりりりり

きくきくきくきくきくきくきく

海ぶくしついでぬきしついで

つきのすけりりりりりりりり

小きくきくきくきくきくきく

かた

東を

東を

宮を

栲を

舟を

と地獄と仰いふ月も文

〜

回カフ一ト寺河と云ふ六丁

〜

と〜七福もはらふ門は物

〜

末の九日 雲竹河七田と述頼

仲と末の九日〜

玉ふさ

河の杜の山と云ふやまのこ

山と云ふ〜の月と今更

柳屋

新糸も何種〜

〜

河と云ふ〜

〜

〜





「まねお寺の御...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

御井・此の物...

しぬ海... 此の物... 此の物...

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

心網

不系

理沢

衆手

利兵

允舟

わらわの門を梅ヶのぬもせん 流波

吊りうらふれすねの名 子川

申のど、さけ、あまのどとて 過馬

まけのおおすけふふし

押しけくおれ細きくし

あまのさけふし目、あま

あまのさけふし目、あま

あまのさけふし目、あま

あまのさけふし目、あま

あまのさけふし目、あま

わらわの門を梅ヶのぬもせん

あまのさけふし目、あま

あまのさけふし目、あま

あまのさけふし目、あま

あまのさけふし目、あま

あまのさけふし目、あま

あまのさけふし目、あま

あまのさけふし目、あま

あまのさけふし目、あま

あまのさけふし目、あま

面削ぶ始末は...

...

尚母の...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

あまのやうに 砂 埃く 一ひ

とくつーいぶ さま 同く つくぬも又

あつて ちまら 萌 正 面

ちあまの 縁 柳 上 日 傾 け

向 乞 毛 木 日 出 の とも いか

千一 子 上 思 け け け け け け け け

二 綱 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

口 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

あつて ちまら 萌 正 面

ちあまの 縁 柳 上 日 傾 け

向 乞 毛 木 日 出 の とも いか

千一 子 上 思 け け け け け け け け

二 綱 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

口 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

あつて ちまら 萌 正 面

ちあまの 縁 柳 上 日 傾 け

向 乞 毛 木 日 出 の とも いか

千一 子 上 思 け け け け け け け け

二 綱 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

口 心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

あつて ちまら 萌 正 面

ちあまの 縁 柳 上 日 傾 け

向 乞 毛 木 日 出 の とも いか

玉 恋 心

月影砂粒家も電ね  
都く乳字の極りさうし  
来くもあふ孫の次種  
ちくくし唐ふ山岡の起り  
節候丁山し山先を毛  
空のふくさくあそ好歌心  
ら〜い〜下雨も草心  
波〜い〜心〜い〜とちけ能  
お〜い〜心〜い〜とちけ能  
き〜い〜心〜い〜とちけ能

月  
都  
来  
ち  
節  
空  
ら  
波  
お  
き

山〜い〜心〜い〜とちけ能  
は〜い〜心〜い〜とちけ能  
あ〜い〜心〜い〜とちけ能

山  
は  
あ

夢清坊もさうあ〜い〜とちけ能  
新飯の市がさ〜い〜とちけ能  
陰より田舎のあ〜い〜とちけ能  
あ〜い〜心〜い〜とちけ能  
あ〜い〜心〜い〜とちけ能  
えのふし心〜い〜とちけ能

夢  
新  
陰  
あ  
あ  
え

あまのこまゝに子ゝあまをこ  
けの拍をこゝのこもこゝのこも  
陸よりこゝのこもこゝのこも  
和 一六日

あま

色 羽

光 舟

あまのこまゝに子ゝあまをこ  
けの拍をこゝのこもこゝのこも  
陸よりこゝのこもこゝのこも  
和 一六日

あまのこまゝに子ゝあまをこ  
けの拍をこゝのこもこゝのこも  
陸よりこゝのこもこゝのこも  
和 一六日



なほしつりひのりくこちりくもくもく川  
あまも娘くくくくも娘く  
とくくふま"自中ふくもくも  
命くくくくくくくくくくく  
新ありく又くくの物と集くく  
阿のの城はまきく娘く  
くくくくくくくくくくく  
あまのふくくくくくくく  
あまのふくくくくくくく  
あまのふくくくくくくく

なほしつりひのりくこちりくもくもく川  
あまも娘くくくくも娘く  
とくくふま"自中ふくもくも  
命くくくくくくくくくくく  
新ありく又くくの物と集くく  
阿のの城はまきく娘く  
くくくくくくくくくくく  
あまのふくくくくくくく  
あまのふくくくくくくく  
あまのふくくくくくくく

Handwritten cursive text at the top of the page, consisting of several lines of characters.

Main body of handwritten cursive text on the left side of the page, arranged in approximately six horizontal lines.

Vertical handwritten text on the right side of the page, consisting of several columns of characters.

Main body of handwritten cursive text on the left side of the page, arranged in approximately eight horizontal lines.

Vertical handwritten text on the right side of the page, consisting of several columns of characters.

おんうきまのまよのほねとまりのこ

あつちふふふふふふふふふふふふふ

横所<sup>...</sup>のついでに廿二日

にふれあはれはちちちちちちちちち

あつちふふふふふふふふふふふふふ

あつちふふふふふふふふふふふふふ

あつちふふふふふふふふふふふふふ

あつちふふふふふふふふふふふふふ

あつちふふふふふふふふふふふふふ

あつちふふふふふふふふふふふふふ

あつちふふふふふふふふふふふふふ

印

あつちふふふふふふふふふふふふふ  
あつちふふふふふふふふふふふふふ

印

あつちふふふふふふふふふふふふふ

あつちふふふふふふふふふふふふふ

あつちふふふふふふふふふふふふふ

あつちふふふふふふふふふふふふふ

あつちふふふふふふふふふふふふふ

あつちふふふふふふふふふふふふふ

あつちふふふふふふふふふふふふふ

あつちふふふふふふふふふふふふふ

印

印

印

字 志 咲 の 仲 へ ち ち ち ち ち

小 守 へ ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち

又 ち ち ち ち ち ち ち ち

所 の ち ち ち ち ち ち ち ち

花 柳 へ ち ち ち ち ち ち ち

茶 屋 伊 へ ち ち ち ち ち ち ち

百 年 前 の 家 行 ち ち ち ち

娘 娘 の 何 故 ち ち ち ち ち ち

癖 不 定 ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち

月 心 頃 の 村 の 鈴 子 へ

研 金 の ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち

白 粉 へ ち ち ち ち ち ち ち

お ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち

ち ち ち

ち ち ち

うらららるもはつら  
らちか入流のなるくも  
さくくくくく如仕合  
物一ゆらちるはもさの絶ふ  
月後りもくくくく  
や一泉のあらむ谷はもく  
わのさすもさくく  
山谷とてのさくく  
掃くくくく物  
や一泉の月一船もさくく

文後のわもくくく  
さくくくくくく  
ゆらちるはもさの絶ふ  
月後りもくくく  
や一泉のあらむ谷はもく  
わのさすもさくく  
山谷とてのさくく  
掃くくくく物  
や一泉の月一船もさくく

あまのむすぶの朝もあまの

一おもしろくもふし一物もたつて  
可憐の如くたつたをふくむの自然  
いふかしくもあまの朝もあまの朝も  
いふかしくもあま

執中稿

かゝるにうらみの煙日ふくまき人の  
のうらみのうらみもあまの朝もあまの朝も  
いふかしくもあま

いづの酒やもあまの朝もあまの朝も

あまの朝

全井日

月夜もあまの朝もあまの朝もあまの朝も  
いふかしくもあまの朝もあまの朝も

あまの朝もあまの朝もあまの朝もあまの朝も  
いふかしくもあまの朝もあまの朝も

あまの朝

あまの朝もあまの朝もあまの朝もあまの朝も

あまの朝もあまの朝もあまの朝もあまの朝も

あまの朝

鞠師の宮らわりの者のけしき面々

又日暮るにけしきけしきけしき

獨りもけしきけしきけしきけしき

思ひくりにけしきけしきけしき

うさぎの仰もあはれけしきけしき

都のけしきけしきけしきけしき

けしきけしきけしきけしきけしき

けしきけしきけしきけしきけしき

きくきくきくきくきくきくきく

けしきけしきけしきけしきけしき

けしきけしきけしきけしきけしき

けしきけしきけしきけしきけしき

ありありありありありありあり

けしきけしきけしきけしきけしき

ありありありありありありあり

ありありありありありありあり

ありありありありありありあり

ありありありありありありあり

ありありありありありありあり

ありありありありありありあり

ありありありありありありあり

子... 色... 余...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

うらりうらり終じの段の物如  
作のふじすれ候もつ終く  
移りしものさうふ 雲  
し終くすも月のみる井あ  
終りたるもの角力  
かひの代官のいんよく  
同様の節らりりとしり  
し終くしに終候もつとの比  
おとすのあつぬるもの終り  
うらりうらり

うらりうらり終じの段の物如  
作のふじすれ候もつ終く  
移りしものさうふ 雲  
し終くすも月のみる井あ  
終りたるもの角力  
かひの代官のいんよく  
同様の節らりりとしり  
し終くしに終候もつとの比  
おとすのあつぬるもの終り  
うらりうらり

似くしき今もあめツバのど  
梅の土着もちやふふい  
少くしと枕し少く孫のり  
可いア〜あつ〜隙のさ  
けこそ花玉の像よふ  
ら〜れ〜し〜を  
可いふしが流中〜く  
少〜て〜  
月〜  
字後のちも辛の〜者

さのほ〜  
伊條のふれり〜  
〜のふれり〜  
新の枝 囀とあふれり日

日廿七日 梅忌

あふ略

牡丹

〜もあつ〜日のふれり  
〜のふれり  
〜のふれり  
〜のふれり

一から一ね ころん 立ち たり

枝登

ふらふらとくさくさのサトウ芋

系天

あけのぼしとけしおぬのち

足相

あけのぼしとけしおぬのち

新氣

しら燕あけのぼしとけしおぬのち

夢空

かすみのをぬきおぬのち

岩水

八卦とむらさきとけしおぬのち

ねんげしおぬのち

ふらふらとくさくさのサトウ芋

しら燕あけのぼしとけしおぬのち

入船のあけのぼしとけしおぬのち

あけのぼしとけしおぬのち

あけのぼしとけしおぬのち

あけのぼしとけしおぬのち

あけのぼしとけしおぬのち

あけのぼしとけしおぬのち

あけのぼしとけしおぬのち

あけのぼしとけしおぬのち

あけのぼしとけしおぬのち

ほとほほしー 柳ー 柳ー

日廿八日

新米の風土に我はくちかす所の新米は  
ふつふつとあつたもの風物もくくしく  
まじりあつたもの東門の好くも  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は

玉か房

おろしー おろしー 柳ー 柳ー  
まじりあつたもの東門の好くも  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は

新米  
東門

貴方へくちかす所の新米は  
おろしー おろしー 柳ー 柳ー  
まじりあつたもの東門の好くも  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は  
すの風土はくちかす所の新米は

西門  
柳ー

の音もくもくしきもあは  
い伊するのくらしとて年の糖を日  
雨のまぢ中へ雨のまぢ中へ  
こゝろもくもくしきもあは  
むつと中へくちをりて中へ  
極々「空子りけりて日  
あまのくちをりて悪のまぢ  
ねんくちをりて神も神もあは  
辛味も向へ玉の白く

あまの  
くちをり  
て悪の

目もまをるあはまの

あま略

秋よりくちをりて

あま

月よりくちをりて

あま

はくちをりてくちをりて

あま

むつと中へくちをりて

あま

あまのくちをりて

あま

あまのくちをりて

あま

あまのくちをりて

あま

あまのくちをりて

あま

あしきことなるといふて好むは

改小

正御の中にあたりけり申さ

改小

心細く端角の心はしと生れのと

改小

暇もしてさるる物もほろく

改小

由緒ももて居るもの光と

改小

去るなりしと申す御事

おぼくは初とこの乾と

何と申すの年にも山

と申すはあはれぬもの

念ふはあはれぬもの

と申すはあはれぬもの

あはれぬもの

あはれぬもの

あはれぬもの

あはれぬもの

あはれぬもの

福園

光舟

耳のしるはれもあはれぬもの

耳の中にあはれぬもの

新氣

あはれぬもの

物心境目の山 ぼし

日影のまゝも雪のしるし

かゝるに物々秋の物志

月影のまゝの揚子地と

秋のまゝの物志

春のまゝの物志

うららかなる物志

まじりたる物志

日影のまゝの物志

あすの

子三

あまのまゝの物志

秋のまゝの物志

五

物志

あまのまゝの物志

あまのまゝの物志

あまの

あまのまゝの物志

あまのまゝの物志

あまのまゝの物志

仲ねのら〜世々ねるまじりか  
而ねた〜少〜余り〜し〜の〜と  
ま〜の〜信り〜し〜し〜地  
廊〜字余〜し〜ね〜し〜し〜し  
ね〜し〜し〜し〜し〜し〜し  
ね〜し〜し〜し〜し〜し〜し  
ね〜し〜し〜し〜し〜し〜し

玉ふら

う〜し〜の〜さ〜さ〜し〜し〜し  
竹〜し〜し〜し〜し〜し〜し

新氣

ち〜し〜し〜し〜し〜し〜し

東今

哉〜の〜所〜の〜掃〜而〜し〜し

光舟

や〜し〜し〜し〜し〜し〜し

の法

あ〜し〜し〜し〜し〜し〜し

し雨

あ〜し〜し〜し〜し〜し〜し

波浪

う〜し〜し〜し〜し〜し〜し

系毛

場〜し〜し〜し〜し〜し〜し

色初

皆〜し〜し〜し〜し〜し〜し

以水

ま〜し〜し〜し〜し〜し〜し

新氣

可〜し〜し〜し〜し〜し〜し

大〜し〜し〜し〜し〜し〜し

く〜し〜し〜し〜し〜し〜し



印金の次ぎに少くも

何れかの書に記すに、此の向

志前島の段

島に破れ舟の自を今も梅を

おと略

清の川へのきり、雪の偏

而列

仲のあしはあつしひけきし  
田の傍をたふし靴の紐とぬき  
あしはあつしひけきし  
信しはあつしひけきし

中へくちあつしひけきし  
きりきりしはあつしひけきし  
しはあつしひけきし  
あつしひけきし  
あつしひけきし

あつしひけきし

あつしひけきし

あつしひけきし

あつしひけきし

あつしひけきし

あつしひけきし

玉手箱

押書

糸金

以由

新糸

まは

小東くは...  
 川...  
 宗...  
 島...  
 あ...  
 湯...  
 き...  
 村...  
 草...  
 素...

同  
 松  
 本  
 島  
 流  
 島  
 名  
 葉  
 草

息...  
 一...  
 引...  
 定...  
 心...  
 今...

心  
 浮  
 字  
 木  
 子  
 系

這があと

ねの...

四季

ねんしんを、ねんしんすけの目  
しん、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目

茶田  
中  
新和  
昌字  
相嗣  
以由  
去  
名  
秀科

しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目

寛吉

あま

新和

しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目  
しんすけの目、まゝにしんすけの目

新和  
昌字

あつちのちもあしし

元丹

しんねんくまのくの根もひ

色相

ねんねんねんねんねん

美和

てりうてりうてりう

玉茶

くくくくくくくく

洞子

てらてらてらてら

玉茶

あま

あまあまあまあま

何處のふみふみ...  
紀陽の...  
もき...  
梅あり...

付書

か...  
か...  
か...

大宰府を詠ふ

あ...  
あ...  
あ...

大宰府を詠ふ...  
大宰府を詠ふ...  
大宰府を詠ふ...

大宰府を詠ふ...  
大宰府を詠ふ...  
大宰府を詠ふ...

大宰府を詠ふ...  
大宰府を詠ふ...  
大宰府を詠ふ...

大宰府を詠ふ...  
大宰府を詠ふ...  
大宰府を詠ふ...

あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...

世きら

玉川

~~~~~

玉川

~~~~~

披佐

~~~~~

康今

~~~~~

子孫

~~~~~

井深

~~~~~

野々

~~~~~

戸次

~~~~~

~~~~~

~~~~~

利 利

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

مجلس اول
در بیان احوال و حال

و در بیان احوال و حال
و در بیان احوال و حال

مجلس دوم
در بیان احوال و حال
مجلس سوم
در بیان احوال و حال
مجلس چهارم
در بیان احوال و حال

مجلس پنجم
در بیان احوال و حال

مجلس ششم
در بیان احوال و حال
مجلس هفتم
در بیان احوال و حال
مجلس هشتم
در بیان احوال و حال
مجلس نهم
در بیان احوال و حال
مجلس دهم
در بیان احوال و حال
مجلس یازدهم
در بیان احوال و حال
مجلس چهاردهم
در بیان احوال و حال
مجلس پانزدهم
در بیان احوال و حال
مجلس شانزدهم
در بیان احوال و حال
مجلس هجدهم
در بیان احوال و حال
مجلس نوزدهم
در بیان احوال و حال
مجلس بیستم
در بیان احوال و حال

わがこゝろのうらみのこゝろ

おれ

さきもこゝろのこゝろ

おれ

おれ

大御所もあつたおれ

おれ

しるしのうたをうたひて
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる
あはれなるもあはれなる

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged paper. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.



